



つながろう

CO-OPアクション情報

2012年2月22日

第13号

◆出会った人たちを 忘れずに



パルシステム連合会
事業本部
副本部長 瀬戸 大作氏

対面供給に通うたびに分かってきたことがあります。それは、私たちが週に1回、人が集う「場」を作っているのだということです。試食をしながら楽しく時間を過ごすのは、昔の宅配のスタイルであり、いわば生協の原点がここにあります。

つい最近まで、この仮設住宅に来ていた野菜売りのトラックが急に来なくなりました。私たちは日々の暮らしを支える生協として、「細く長く」続けていくことが大切だと思っています。

避難している方々が大熊町に帰れる日がいつなのか、それはまだ分かりません。でも、私たちはその日まで皆さんに寄り添っていたい。

参加した職員には「長い間支え続ける体制をつくるためにも、今日出会った人たちのことは絶対に忘れないでほしい」と伝えています。

買い物が不便な皆さんのお役に立ちたい

～パルシステム、仮設住宅での対面供給に協力～



荷物を戸口まで運びながら、おしゃべり。コミュニケーションを大切にしている。

福島県大熊町から数多くの方が避難している会津若松市。パルシステム※では、被災された方々の課題解決をめざす「元気玉プロジェクト」に協力し、特に買い物が不便な仮設住宅4カ所に物資を届ける「対面供給」を昨年末から行なっています。毎週水・木曜日は、パルシステムが被災地に寄贈した2トントラックに、生鮮食品や冷凍食品などをパルシステム福島郡山配送センターで積み込み、会津若松市内の仮設住宅を訪れています。

1月26日、パルシステムの職員14人が現地を訪れ、仮設住宅の集会所で対面供給を行ないました。試食しながら談笑する人々の表情から、この取り組みがよいコミュニケーションの場になっていることが分かります。3歳の息子と一緒に集会所を訪れていた女性は、「雪も多く、買い物にも不自由していたので、ここまで来てくれるのは、本当にありがたいです」と話していました。

※パルシステム連合会と会員生協、関連会社を含めたパルシステムグループ。



力仕事である雪かきにも、パルシステムがお役立ち。

雪かき支援も実施

パルシステムは、対面供給を行なっている仮設住宅において、雪の多い日は、雪かき支援活動も実施。2月2日、職員は、大粒の汗をかきながら、雪かきを行なっていました。パルシステムでは、今後も被災地の復興に向け、さまざまな活動に取り組んでいきます。